

第3章 第4次計画の具体的な取組

1 基本方針・目標

ブックスタート事業の開始やおはなし会の充実等により、新生児から未就学児童、小学校低学年児童への取組に重点が置かれていた第1次計画に続いて、第2次計画では小学生、中学生への取組に重点を置き、学校図書館に関する取組の充実が図られました。さらに第3次計画では、乳児から未就学児への取組を重点に加え、3歳児健康診査時のブックリスト配付を開始するとともに、学校配送便の新設などの成果をあげることができました。

第4次計画では、以下の総合的な目標のもと、子どもの発達段階に応じた取組の体系とします。そして、発達段階ごとに目標と重点を掲げ、一人一人の子どもを取り巻く状況や個性に応じた、子ども読書活動の更なる推進を図ることとしました。

第4次計画の目標

「子ども自らが本と出会い・楽しみ・学ぶ、豊かな読書活動の推進」

2 対象

0歳から18歳までを対象とします。

3 計画の期間

令和4年度から令和7年度までの4年間とします。

4 第4次計画 取組の体系

| | 目標・重点 | 主な事業 |
|--|--|--|
| 子ども の 発 達 段 階 に 応 じ た 取 組 | 乳児期 目標：家庭における読書活動への支援 重点：・ブックスタート事業 ・わらべ歌や手遊びを取り入れたおはなし会 | ・ブックスタート事業 ・図書館デビュー応援事業 おはなし会 (わらべ歌や手遊びの伝承) |
| | 幼児期 目標：時期と個性にあった本との出会いへの支援 重点：・ブックリスト配付 ・図書館等の各種イベント | ・幼児へのブックリスト配付 ・親子で楽しめるイベント ・市立図書館の見学会 |
| | 小学生 目標：自ら本に親しむことができる児童の育成 重点：・学校図書館の利活用 ・学校と市立図書館の連携 | ・学校図書館の学習活動での利活用 ・学校と市立図書館の連携 ・児童・生徒の読書活動に関わる人材の育成 ・学校の実態に応じた読書関連イベント等 |
| | 中学生 目標：読書を通じて自分の世界を広げることができる生徒の育成 重点：・学校図書館の利活用 ・学校における読書活動 | ・市立図書館における中高校生向けイベント ・市立図書館ホームページ等における高校生向け読書関連情報の発信 |
| | 高校生 目標：読書を通じて人生を豊かにできる生徒の育成 重点：・市立図書館から高校生向け読書情報の提供 ・市立図書館における高校生向けイベント | ・市立図書館の整備と蔵書の充実(電子書籍の導入検討) ・関係団体との連携(社会教育関係・読書ボランティア団体・点字図書館) ・外国語・バリアフリー図書の整備 |
| 環境整備 | 読書活動推進における環境整備 ・市立図書館の整備と蔵書の充実 ・関係団体との連携(社会教育関係・読書ボランティア団体) ・さまざまな障害のある子どもや、外国語を母国語としている子どもへの読書環境の整備 | ・電子書籍の利活用 |

5 成果指標（数値目標）

| | 指 標 | 単 位 | 現 状 値 令和2年度 (2020年度) | 目 標 令和7年度 (2025年度) | 目標値の 設定理由 | |
|---|--|-----|----------------------------|--------------------------|--|---|
| 1 | 1カ月間の 平均読書冊数 | 小学生 | 冊 | 7.6 | 9.6 | 計画全体の効果を図る指標として設定するものです。 1. 平均読書冊数は、小中学生とも2冊の増加を目指します。 |
| | | 中学生 | 冊 | 2.7 | 4.7 | |
| 2 | 自分で興味を持って 選んだ本を1カ月に 1回以上読んだ子ども の割合 ※2 | 小学生 | % | ※3 88.5 | 100 | 2. すべての子どもが 自発的な読書経験 ができることを目指します。 3. 横須賀市の子ども数の減少を考慮し、 児童書貸出冊数 の目標値を見直しました。 |
| | | 中学生 | % | ※3 65.3 | 100 | |
| 3 | 市立図書館における 児童書の貸出冊数 | 冊 | 391,610 | 400,000 | | |
| 4 | 中学生以下人口1人当たり の市立図書館における 児童書の貸出冊数（新設） | 冊 | 8.7 | 10.0 | 4. 児童書の対象年齢である 中学生以下を対象に1人当たりの児童書貸出冊数 の1.3冊増を目指します。 | |
| 5 | 本を読むことが 好きな子どもの 割合 （新設） | 小学生 | % | 78.2 | 88.2 | 5. 本を読むことが好きだと感じている子どもの割合を小中高校生とも10%増を目指します。 |
| | | 中学生 | % | 70.9 | 80.9 | |
| | | 高校生 | % | 78.1 | 88.1 | |
| 6 | 市立図書館と 連携した学校の 割合 | 小学校 | % | 69.6 ※4 (32校/46校) | 100 (46校/46校) | 小中学校の読書環境整備の指標として設定するものです。 6. 市立図書館と連携した 学校の割合 は、「調べ学習」「市立図書館見学」「職業体験」など、様々な方法で小中学校の全校で実施されることを目指します。 |
| | | 中学校 | % | 39.1 ※4 (9校/23校) | 100 (23校/23校) | |
| 7 | 学校図書館が日常的に開いている学校の割合（試験期間など、特別な期間を除き、毎日一定の時間を開館している割合） | 小学校 | % | 45.7 ※5 (21校/46校) | 100 (46校/46校) | 7. 学校図書館の開館時間 については、子どもが日常的に学校図書館を利用できる環境がすべての学校で整うことを目指します。 |
| | | 中学校 | % | 0 ※5 (0校/23校) | 100 (23校/23校) | |

（※2）「自分で興味を持って選んだ本」とは、課題図書、書評、ブックリストなどの情報に基づき、その中から自分で本を選んだ場合を含む

（※3）現状値は「1カ月に1冊以上本を読む子どもの割合」

（※4）現状値は「市立図書館の本を調べ学習等に活用している学校の割合」

（※5）現状値は「子どもが行ける時間帯には学校図書館が常にかいている学校の割合」

6 主な事業内容

子どもの発達段階に応じた取組

(1) 乳児期

「家庭における読書活動への支援」を目標とします。

「ブックスタート」について、乳児健診時に参加できなかった赤ちゃんと保護者を対象にした、児童図書館でのフォローアップの読み聞かせを実施します。また児童図書館で、妊産婦や乳児の保護者を対象にした「図書館デビュー応援事業」を新規に実施します。さらに、市立図書館において、わらべ歌や手遊びなどを取り入れた「おはなし会」を拡充して実施します。

- ・ブックスタート事業 中央図書館
- ・図書館デビュー応援事業（妊産婦・乳児の保護者を支援）（新規） 中央図書館
- ・わらべ歌・手遊びなどを取り入れたおはなし会（拡充） 中央図書館

【コラム1】

～保育園の取組～

子ども達と絵本を読む時、応答的関わりを大切にしています。大人が一方的に読み聞かせをするのではなく、子ども達と対話しながら一人一人が満足できるような関わりをしています。また、子ども達の興味や季節にあった本が、手に取りやすいような環境を作っています。

小さい時からの経験の積み重ねが、本への興味・関心につながり、学びの芽生えになると考えています。



(2) 幼児期

「時期と個性にあった本との出会いへの支援」を目標とします。

3歳児健診受診時の「ブックリスト」配付、図書館やコミュニティセンター、愛らんどでの「おはなし会」の実施、市立図書館での「親子で楽しめるイベント」の実施等により、本と親しみ、本と出会う機会を増やします。市立図書館における「おはなし会」については、わらべ歌や手遊びなどを取り入れて実施します。

- ・ わらべ歌・手遊びなどを取り入れたおはなし会(拡充) 中央図書館
- ・ 3歳児健診時のブックリスト配付と市立図書館イベント情報等の発信
こども健康課・中央図書館
- ・ 親子で楽しめるイベント
地域コミュニティ支援課・各行政センター・保育課・中央図書館
- ・ 市立図書館の見学会 中央図書館

【コラム2】

～おうちでおりがみ（市立図書館の新生活様式でのイベント）～

毎年夏休みに実施する、「夏休みおりがみ教室」を、令和2年度から、教室形式でなく、「折り紙」とセットでおりがみの本を貸出し、希望者には作品を図書館へ持参していただき、図書館内へ展示する形式に変更しました。

がんばって作った作品を、持参したり、親子で見に来たりと、図書館への来館機会を増やすことにもつながり、市民にも好評でした。新型コロナウイルス感染予防を踏まえた新生活様式の中、イベントの実施方法も工夫が必要となります。



令和2年度の作品



令和3年度の作品

(3) 小学生

「自ら本に親しむことができる児童の育成」を目標とします。

「学校図書館の利活用」を推進します。そのために、司書教諭・学校司書を対象とした研修を実施するなど、「児童の読書活動に関わる人材の充実」を図ります。また、「読書感想文コンクール」「読書感想画展」など、学校の実態に応じたイベント等を実施することにより、学校全体で読書に取り組むことができる環境づくりを目指します。さらに、市立図書館の蔵書を授業等に活用できるよう、学校と市立図書館の連携を充実させます。学校において1人1台端末が導入されるため、電子書籍の利活用について検討します。

- ・親子で楽しめるイベント 中央図書館
- ・市立図書館の見学会 中央図書館
- ・学校図書館の学習活動での利活用 教育指導課
- ・小学校と市立図書館の連携（学校配送便など） 教育指導課・中央図書館
- ・児童の読書活動に関わる人材の充実 教育指導課・中央図書館
- ・学校の実態に応じた読書関連イベント等 教育指導課
- ・1人1台端末を活用した電子書籍の利活用の検討(新規)
中央図書館 教育指導課

【コラム3】

～学校図書館での取組～

学校司書や学校図書館ボランティアの取組により、学校図書館の環境整備が進んでいます。また、メディアステーションとしての機能を意識した学校図書館の充実に取り組む事例も見られます。今後は感染症対策を学校図書館において、継続して実施することが大切になります。

「本を読むことが好き」「学校図書館での授業が楽しい」「みんなにお気に入りの本を薦めたい」そんな子どもたちが増えると同時に、先生方の授業づくりを支援していきけるような場所になることを目指します。



学校図書館での授業



森をイメージした整備



学校司書と授業の打合せ

(4) 中学生

「読書を通じて自分の世界を広げることができる生徒の育成」を目標とします。

中学生についても、「学校図書館の利活用」を推進します。また、生徒が自分の世界を広げる本と出会う機会を作れるよう、学校の実態に応じた読書に関連するイベント等の実施を推進します。さらに、学校と市立図書館の連携を充実させます。学校において1人1台端末が導入されるため、電子書籍の利活用について、検討します。市立図書館において、中学生が参加できる読書に関するイベントを実施します。

- ・ 学校図書館の学習活動での利活用 教育指導課
- ・ 中学校と市立図書館の連携（学校配送便など） 教育指導課・中央図書館
- ・ 生徒の読書活動に関わる人材の充実 教育指導課・中央図書館
- ・ 学校の実態に応じた読書関連イベント等 教育指導課
- ・ 市立図書館における中高校生向けイベント（拡充） 中央図書館
- ・ 1人1台端末を活用した電子書籍の利活用の検討(新規)
中央図書館 教育指導課

【コラム4】

～大学生が勧める中高生の本（市立図書館での中高生へむけたイベント）～

秋の読書週間に合わせて、関東学院大学司書課程の学生の方々が中高生にすすめる本をPOP（広告）を使って紹介しています。

イラストやロゴのデザインとわかりやすい文章説明があるので、大変好評です。



(5) 高校生

「読書を通じて人生を豊かにできる生徒の育成」を目標とします。

高校生におすすめする本の情報等を市立図書館ホームページで発信します。また、市立図書館における電子書籍の検討など、インターネット環境での読書環境の充実を目指します。さらに、市立図書館において、高校生が参加できる読書に関するイベントを実施します。

- ・市立図書館における中高校生向けイベント（拡充） 中央図書館
- ・市立図書館ホームページ等における高校生向け読書関連情報の発信
(新規) 中央図書館
- ・市立図書館での電子書籍の検討(新規) 中央図書館

環境整備

(6) 市立図書館の充実

子どもの読書に対する興味・関心が広がるよう、図書館ホームページ等において図書情報の充実を図ります。また、図書館ホームページに中高生向けページを設置するとともに、市立図書館において中高生向けコーナーの設置を検討します。さらに、市立図書館における電子書籍の導入について検討します。

- ・市立図書館の整備と蔵書の充実（電子書籍の導入検討(新規)） 中央図書館

【コラム5】

～児童図書館の環境整備～

児童図書館は、令和3年度に修繕工事を兼ねたリニューアルを実施しました。

絵本のコーナー全体がリニューアルされ、2部屋だったものが1つに繋がりと、靴を脱いだまま、2つのエリアを行き来できるようになり、利用者が使いやすくなりました。

同時に「よかった ありがとう。」文庫をオープンし、いただいた寄附により購入した絵本 約1,700冊が、子どもたちを迎えています。



(7) 関係機関・団体との連携

社会教育施設（博物館・美術館）との連携では、博物館職員が講師を務める図書館イベントや、美術館の企画展と連携したブックリストの作成などを実施します。

市立図書館の読書ボランティア活動を支援するため、「読書ボランティア育成講座」を実施し、読書ボランティアの活性化を推進します。

・関係団体との連携（社会教育関係・読書ボランティア団体・点字図書館）

中央図書館

(8) さまざまな障害のある子どもや、外国語を母国語としている子どもへの読書環境の整備

市立図書館において、さまざまな障害のある子どもや外国語を母国語としている子どもが利用しやすい形式で本の内容にアクセスできるよう、バリアフリーの図書や英語をはじめとする外国語の絵本を充実させ、さまざまな蔵書があることをホームページで発信します。

・外国語・バリアフリー図書の整備

中央図書館

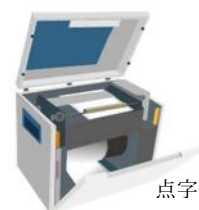
【コラム6】

～バリアフリー図書～

文部科学省が2012年に実施した「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」によると、学習や生活の面で特別な支援が必要とされる児童生徒が通常学級に6.5%在籍しています。

一人一人の子どもの特性にあわせて、読みやすさや分かりやすさを実現する次のような図書（バリアフリー図書）を整備することが大切です。

- ・おもに聴覚を活用する図書
- ・おもに視覚を活用する図書
- ・おもに触覚を活用する図書
- ・子どものニーズに応じた、わかりやすい文章や写真、絵などで構成されている図書



点字プリンタ

7 進行管理

成果指標と重点事業について、その進捗を確認し、成果を検証することにより、目標に向けての進行管理を実施します。